

中長期で拡大するトルコの観光収入

～ 2006 年の観光収入は治安悪化などの影響で前年比 7.2% 減 ～

2007年 4 月 3 日 (火)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

トルコは世界有数の観光立国として知られており、観光収入が名目 GDP に占める割合は 5 % に達する (2005 年)。日本の観光収入はトルコの 7 割程度、名目 GDP に占める割合では 0.3 % 程度にすぎない (2005 年)。

これまでのトルコの観光収入の推移をみると、年々増加傾向をたどってきたことがわかる。2005 年の観光収入は過去最高となる 181.5 億ドルに達した。

トルコは昔から観光資源が非常に豊富で、ユネスコの世界遺産に登録されている文化遺産や複合遺産も多く存在する。文化遺産としては、トロイの遺跡、イスタンブールの歴史地域、クサントス・レトーンなどが有名であり、複合遺産としては、ギョレメ国立公園およびカッパドキアの岩石遺跡群やトルコ西部にあるヒエラポリス-パムッカレが名高い。

製造業の国際競争力がまだそれほど強くないトルコでは、貿易収支が輸入超過に陥りやすく、観光収入や観光に伴う輸送収入が外貨蓄積や経常収支赤字をファイナンスする重要な手段となっている。これまでの観光収入や輸送収入の増加によって、トルコの外貨準備高は大幅に拡大しており、2007 年 1 月時点では 928.9 億ドルにも達する。

トルコ政府が観光資源の開発や観光産業の育成に力を入れていることもあって、観光収入額はこれまで大幅に拡大してきたが、直近の 2006 年は前年比 7.2 % 減の 168.5 億ドルと低迷した。

2006 年の観光収入の内訳をみると、国内景気が好調に推移していることから国内観光収入は増加したが、外国からの観光収入は 2006 年後半以降、通貨リラが他国の通貨に対して上昇したこともあって伸び悩んだ。外国からの観光収入が伸び悩んだ背景には、トルコの治安が悪化していたという事情もある。トルコでは、2006 年の前半に、分離独立を求めるクルド人の武装勢力によるテロ事件が相次いで発生した。最大の経済都市イスタンブールにおいても、爆弾テロなどが起きている。

今後については、トルコのマクロ経済が好調に推移すると見込まれるうえ、為替レートも安定的に推移、治安も改善するとみられることから、観光収入は再び増加傾向で推移することになるだろう。トルコは、日本人観光客の呼び込みにも積極的で、将来的には年間 10 万人程度の日本人観光客を 50 万人にまで増やすことを目標として掲げている。

(観光収入が外貨蓄積の重要な手段に)

ポストB R I C sの有力グループ「V I S T A」^(注)の一角を占めるトルコ共和国は、世界有数の観光立国として知られており、観光収入が名目G D Pに占める割合は5%にも達する(2005年)。日本の観光収入はトルコの7割程度、名目G D Pに占める割合では0.3%程度にすぎない(2005年)。

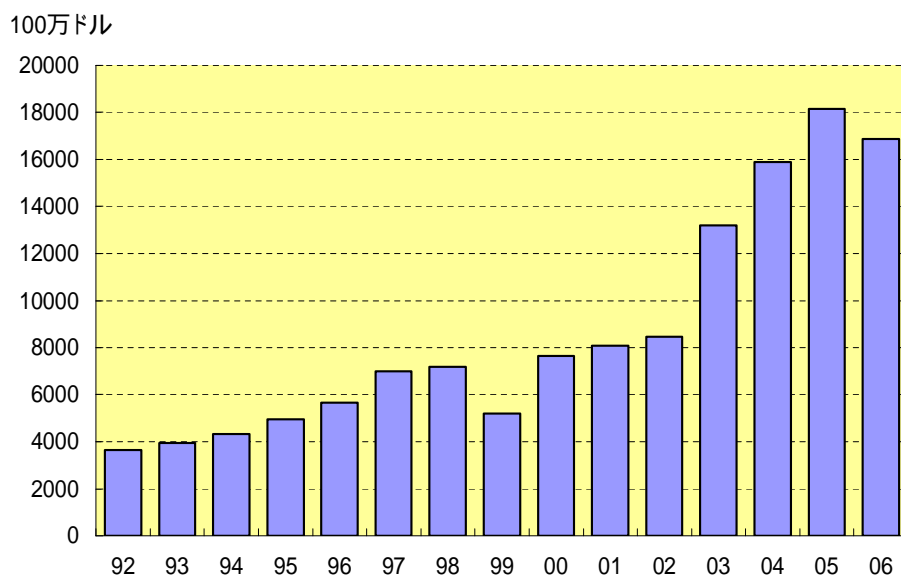
トルコ統計局の資料によって、これまでのトルコの観光収入の推移をみると、年々増加傾向をたどってきたことがわかる(図表1)。2005年の観光収入は過去最高となる181.5億ドルに達した。

トルコは昔から観光資源が非常に豊富で、ユネスコの世界遺産に登録されている文化遺産や複合遺産(文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えた遺産)も多く存在する。文化遺産としては、トロイの遺跡(1998年文化遺産登録)、イスタンブールの歴史地域(1985年文化遺産登録)、クサントス・レトーン(1988年文化遺産登録)などが有名であり、複合遺産としては、ギョレメ国立公園およびカッパドキアの岩石遺跡群(1985年複合遺産登録)やトルコ西部にあるヒエラポリス-パムッカレ(1988年複合遺産登録)が名高い。

製造業の国際競争力がまだそれほど強くないトルコでは、貿易収支が輸入超過に陥りやすく、観光収入や観光に伴う輸送収入が外貨蓄積や経常収支赤字をファイナンスする重要な手段となっている。これまでの観光収入や輸送収入の増加によって、トルコの外貨準備高は大幅に拡大しており、2007年1月時点では928.9億ドルにも達する(図表2)。95年末時点と比べると約4倍の規模に膨らんでいる。

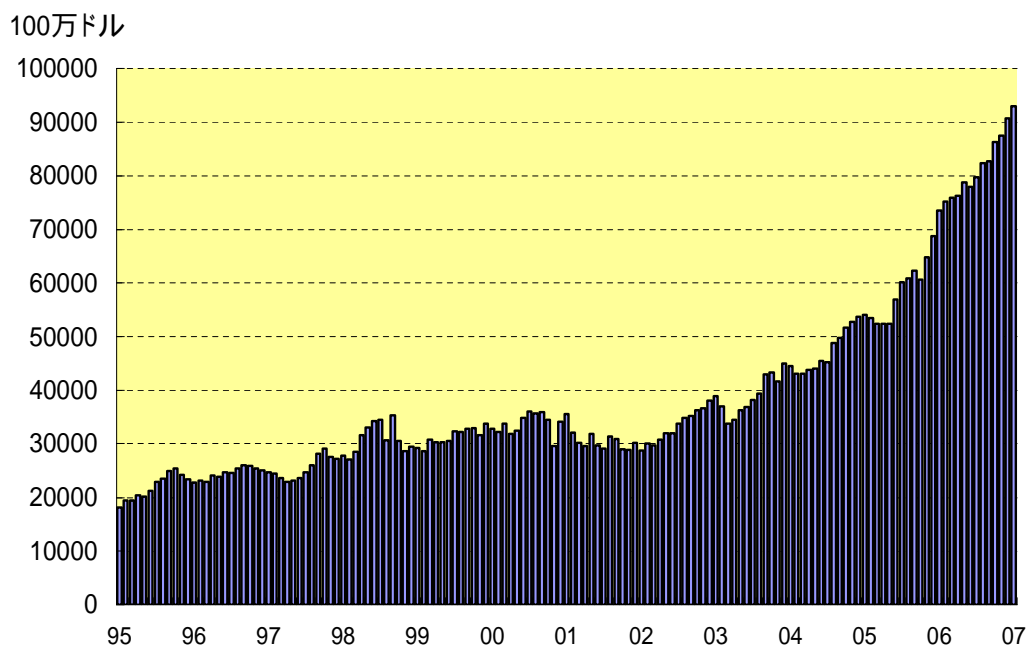
(注)V I S T A(ピスタと発音)とは、ベトナム(Vietnam)、インドネシア(Indonesia)、南アフリカ(South Africa)、トルコ(Turkey)、アルゼンチン(Argentina)の5カ国の英語の頭文字をつなげた造語で、「眺望、眺め」をあらわす英語の「V I S T A」にかけたもの。高成長のための条件を備えた有力新興国で、ポストB R I C sの最有力候補グループ。「V I S T A」はB R I C s経済研究所が命名。「V I S T A」は、地理的なリスク分散も考慮して、東南アジア、中東、南米、アフリカからバランスよく候補国を選んでいる点に特徴がある。

図表1 トルコの観光収入の推移



(出所)トルコ統計局資料より作成

図表2 トルコの外貨準備高



(出所) トルコ中央銀行資料より作成

(日本人観光客数を5倍に)

トルコ政府が観光資源の開発や観光産業の育成に力を入れていることもあって、観光収入額はこれまで大幅に拡大してきたが、直近の2006年は前年比7.2%減の168.5億ドルと低迷した。

2006年の観光収入の内訳をみると、国内景気が好調に推移していることから国内観光収入は増加したが、外国からの観光収入は2006年後半以降、通貨リラが他国の通貨に対して上昇したこともあって伸び悩んだ。外国人観光客からの観光収入が前年比9.9%減の125.5億ドル、国内観光客からの観光収入については1.7%増の43億ドルとなった。

外国からの観光収入が伸び悩んだ背景には、トルコの治安が悪化していたという事情もある。トルコでは、2006年の前半に、分離独立を求めるクルド人の武装勢力によるテロ事件が相次いで発生した。最大の経済都市イスタンブールにおいても、爆弾テロなどが起きている。2006年8月27日から28日にかけても、イスタンブールと南西部のマルマリスとアンタリヤで、クルド人武装勢力による爆弾テロ事件が発生した。トルコの治安部隊は相次ぐテロ事件を受けて警戒体制を強化している。

今後については、トルコのマクロ経済が好調に推移すると見込まれるうえ、為替レートも安定的に推移、治安も安定するとみられることから、観光収入は再び増加傾向で推移することになるだろう。トルコは、日本人観光客の呼び込みにも積極的で、将来的には年間10万人程度の日本人観光客を50万人にまで増やすことを目標として掲げている。